

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2020 年 3 月 31 日
報告者	杉本直樹（百伝の杜家族会事務局）
助成団体名 （所属団体名）	百伝の杜家族会
団体住所	〒 520-3252 滋賀 都道府県 湖南市岩根 690 番地の 4
団体電話番号	0748 — 69 — 7688
代表者 （助成対象者）	彌永正文（百伝の杜家族会会長）
助成対象事業	デイキャンプの開催とまちづくりフェスタへの参画
事業（助成）期間	2017 年 4 月 1 日 ～ 2020 年 3 月 31 日
事業費総額	785,000 円
助成金総額	785,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

【デイキャンプの開催とまちづくりフェスタへの参画】

○デイキャンプ

- ・平成 29 年 8 月 2 日（ヴィラ十二坊軒下内玄関軒下：63 名参加）
- ・平成 30 年 8 月 8 日（ヴィラ十二坊施設内玄関軒下：68 名参加）
- ・令和元年 8 月 21 日（水戸学童保育所星の子クラブ敷地内：70 名参加）

近隣の水戸学童保育所星の子クラブの学童を対象に夏休み期間中にデイキャンプを上記の日程で開催しました。毎年創作活動として、焼き杉作りやペーパークラフト、竹細工などを小規模特別養護老人ホーム百伝の杜のご入居者と学童の交流を図りながら実施しました。その後、助成金で購入した人工あや竹などを使用して、皆でそうめん流しを行ってきました。

○まちづくりフェスタへの参画

- ・平成 29 年 10 月 29 日（岩根まちづくりフェア参画）
- ・平成 29 年 12 月 10 日（水戸まちづくりフェスタ参画）
- ・平成 30 年 10 月 21 日（岩根まちづくりフェア参画）
- ・平成 30 年 12 月 9 日（水戸まちづくりフェスタ参画）
- ・令和 元年 10 月 27 日（岩根まちづくりフェア参画）
- ・令和 元年 12 月 8 日（水戸まちづくりフェスタ参画）

毎年近隣の地域で開催されているまちづくりフェスタへ企画の段階から事務局が参加し地域貢献の一環でフェスタへの参画をさせていただきました。助成金で購入した福祉用具を多数展示し、見るだけではなく実際に来場者には体験をして頂ける機会を設けました。また AED トレーナーや心肺蘇生訓練キットも使用し、来場の希望者には心肺蘇生や AED のデモ訓練などもミニ研修として行いました。介護に悩みや不安を持っておられる方に対しては介護のなんでも相談会もさせていただき、30 年度、元年度には業者から無料で借用した血管年齢の測定なども行い健康に向けた取り組みも実施してきました。

3、事業成果

デイキャンプでは、8月に夏休み中の水戸学区学童を対象に毎年開催しました。3年間で学童の参加総数は200名程あり、『事業内容』の通り創作活動（物作り教室）と流しそうめんなどを実施しました。普段自宅では出来ない創作をテーマに、毎年内容を変えて『焼き杉づくり』『ペーパークラフト』『竹細工で箸や器作り』、を創作しました。初めて創作した学童が大半で興味深く楽しんでもらえたように思います。また百伝の杜にご入居のお年寄りも参加して頂き、創作活動を通して学童とお年寄りの世代間交流も実施しました。お年寄りとの関りや接する機会が殆どない学童も多く交流を通じて高齢者への接する態度や姿勢への学習にも繋がったのではないかと感じています。

流しそうめんでは、地域の行事でも近年は行われることが少なく学童からも毎年好評でした。流しそうめん以外では学童と共にご飯を炊いたり、おにぎりを作ったり、熱中症対策で手作りの経口補水液などを作ったりと簡単な調理を通して料理を学ぶ機会にもなったと思います。そうめん流しの竹は人工竹を助成金で購入したことにより、毎年衛生的に使用することができました。

デイキャンプの総括としては、学童の夏休みの一行事として地域に住む小学生の健やかな成長の一助となるような取り組みができたのではないかと考えています。

まちづくりフェスタへの参画では、近隣の地域で開催される『岩根まちづくりフェア』と『水戸まちづくりフェスタ』へ積極的に参加させて頂いています。助成金で購入した福祉用具を多数展示し、車いすや歩行者、杖やクッションなども来場者には自由に体験をして頂き、『こんな杖もあるんですね』『初めて使った』など福祉用具を見るだけでなく身近に感じて頂く機会を設けられたと思います。そして展示できる福祉用具は限られている為に福祉用具の総合カタログ：ALL LIFEを希望者には配布しました。

AEDトレーナーや心肺蘇生キットも活用し来場者に研修としてAEDのデモを行ったり、心肺蘇生の訓練なども行いました。来場者からは『なかなかこのような機会は無いので勉強になりました』などといったご意見を頂いています。また介護何でも相談として、専門職（家族会事務局の生活相談員）をブースに配置し、介護に関する相談の受付も行い、日常の介護に関する困りごとなどに対してアドバイスや関係機関の紹介などもさせて頂きました。

まちづくりフェスタでこのような福祉に関するブースは珍しく、実際に介護に携わっていない地域住民に対しても福祉用具に触れることで介護、高齢者福祉を身近に感じていただけたのではないかと考えます。

以上の2つの取り組みを通して、地域に住む子供や、施設にご入居されている高齢者、そして地域住民との繋がりを念頭に置いた地域共生型社会の推進に寄与する事業になったのではないかと考えています。

4、今後の課題など

デイキャンプにおいては、事業成果の通り学童の夏休みの行事の一つとして自然の物を使っての創作活動や、お年寄りとの世代間交流もできたが、一度の開催で学童の参加人数も多いことで家族会の協力者だけでは準備や対応など行き届かない面もあったのではないかと思います。また学年に関しても1年生から6年生まで幅広い学年の受け入れでもあったために創作活動の内容も低学年でもできる内容を中心に行ってきました。学年別での開催であれば創作の内容にも幅を持たせられるのではないかと思います。今後は回数や学年を分けて、参加人数の調整をするなどの工夫をしていきたいと考えています。

まちづくりフェスタへの参画では、福祉用具の展示や体験を中心に行い、介護や福祉用具に興味のある方が中心にブースへ来場して頂いています。課題としては、どうしても興味の薄い方、介護に携わる機会が殆どない方の来場は少ない傾向にあります。今後は健康推進に関連した取り組みも検討し、老若男女全ての方が気軽に来場し高齢者福祉に触れる機会をより設けていきたいと考えています。